

第 22 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会拡大幹事会
議事録

1. 日時：平成 25 年 12 月 11 日（水）10：00－11：30

2. 場所：日本工学会会議室

3. 出席者：広崎膨太郎、川島一彦、秋永広幸、岡田恵夫、奥津良之、尾崎章、加藤穂慈氏、但田
潔、長井寿、持田侑宏、四戸靖郷（事務局）

4. 資料

資料 22-1：第 21 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）（川島幹事長）

資料 22-2：他団体が実施する講習会、技術講座、研修プログラム等に対する本会名義の「認定」
ガイドライン(理事会資料 25-5-①)（事務局）

資料 22-3：「SICE 続々プロセス塾 2014」塾生募集の案内(案)（奥津幹事）

5. 議事

1) 前回議事録（案）確認

資料 22-1 に基づき、第 21 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）が紹介され、1 箇所字句追加の上、議事録として承認された。

2) 認定事業に関するガイドラインについて

広崎委員長から資料 22-2 を用いて、理事会で決定された「認定ガイドライン」が紹介され、これに対する ECE プログラム側の対応が議論された。主要な点は以下の通りである。

（1）資料 22-1 に基づいて ECE プログラムを実施する。公益認定ガイドラインの事業区分「1 4 表彰、コンクール」に基づいた事業として分類される。

（2）「認定委員会」の役割りを「ECE プログラム委員会」に持たせることとする。すなわち、「ECE プログラム委員会」は ECE プログラムの認定基準を作成し、これに基づいて提案された ECE プログラムの認定可否を審査し、その審査結果(案)を理事会に提示して、承認を得る役割を果たす。なお、この ECE プログラム認定は、あくまでプログラムの認定を行うものであり個人認定を行うものではない。

（3）「個別 ECE プログラム推進委員会」は ECE プログラム委員会で定められた方針の下に当該 ECE プログラムを開発し実施する。また、ECE プログラム認定証の授与者の原案を定める。なお、個人認定との区別が不明確な部分については、今後更に改善策を検討する。

（4）ECE プログラム認定証は日本工学会会長と個別 ECE プログラム推進委員会委員長の連記で出すことになる。個別 ECE プログラム推進委員会委員長を付ける理由は、当該分野の権威者の参加の下に開発、実施された ECE プログラムであることを明らかにするためである。

（5）現在までは、ECE プログラム委員会は委員長の他、個別 ECE プログラム推進委員会委員長から構成することとしているため、2 名の委員しかいない。今後は「認定委員会」としての役割を

果たすと同時に、ECE プログラムの今後の推進を図るために委員数をもう少し増加させる必要がある。

(6) 平成 25 年度の ECE プログラム認定証の発行及び平成 26 年度の ECE プログラム参加者の募集を速やかに進めるため、次回の理事会(平成 26 年 1 月 15 日)に認定基準および認定委員会(ECE プログラム委員会)構成を諮ることができるように対応する。

(7) 上記(6)と同時に、前々から懸案となっている ECE プログラム申請書も作成する。

(8) ECE プログラム申請書、認定基準は日本工学会ホームページで公開する。

3) ECE プログラムの現状報告

(1) 続々SICE プロセス塾

奥津幹事から、資料 22-3 を用いて、以下の報告が行われた。

- ① 5 回のスクーリング中、4 回が終了しており、平成 26 年 3 月初旬にプログラムを終了予定である。35 名の受講者がいる。
- ② プログラム終了後、続々プロセス塾 ECE プログラム推進委員会(北森俊行委員長)において受講者を評価し、ECE プログラム認定証の授与者を決定予定である。このプログラムでは、現場がわかり、自立でき、社会人脈を活用できる人材の育成を主目的としている。
- ③ 平成 26 年度の受講者募集を平成 26 年 1 月頃から開始しようとしている。この段階までに平成 26 年度続々SICE プロセス塾が ECE プログラムとして認定されることを期待する。

(2) 国土強靱化に資する材料開発と評価技術 ECE プログラム

長井幹事から、以下の報告が行われた。

- ① 6 回の講義及び 1 回の見学会のうち、現在までに 4 回の講義と見学会を終えた。平成 25 年 1 月と 3 月に残り 2 回の講義を終える予定である。
- ② 平成 26 年 3 月 24 日までに全プログラムを終え、物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会(岸輝雄委員長)で評価し、ECE プログラム認定証の授与者を決定予定である。
- ③ 平成 26 年度の受講者募集を進める。

以上の 2 件の報告に対して、以下の意見が出された。

- ① 各プログラムの受講者のうち、何パーセントに ECE プログラム認定証を渡すかについて、ECE プログラム間で差があっても良いが、その理由を説明できるように準備しておく。
- ② ECE プログラム推進委員会の開催経緯と議事録を幹事会に報告する。

4) ECE プログラム関連の情報発信

(1) ECE プログラムに関する日本工学会のウェブの充実

「ECE プログラムの開発と運用―国際競争力向上に向けて」(平成 25 年 3 月)の PDF がダウンロード可能となったほか、平成 25 年の「国土強靱化に資する材料開発と評価技術」及び「続々SICE プロセス塾」が ECE プログラムとして認定されたことが平成 25 年 7 月 1 日付けでウェブの新着情

報に掲載され、それぞれ NIMS、計測制御学会に対するリンクも張られている。ただし、計測制御学会側の対応ウェブが掲載されていないようであるため、奥津幹事に確認を依頼した。

ウェブによる情報発信はきわめて重要であり、今後とも ECE プログラム委員会の活動が外部から見えるように情報発信する必要がある。

(2) ECE プログラム認定証授与者の公開

本人の確認が求められるが、ウェブに ECE プログラム認定証授与者を公開する。対外的に ECE プログラムに対する認知度を上げると同時に、ECE プログラム認定証授与者の交流を促進することを期待するためである。

なお、今後の認定証にはナンバリングを入れることとする。ナンバリングの入れ方は次回の幹事会で議論する。

上記の 2 点については、現在までの既授与者にも適用する。

6. 次回

次回を平成 25 年 12 月中に開催することとし、日程は別途調整の上、定める。